

単 独

設 計 図 書

(特記仕様書・位置図・工事数量総括表)

2025 年度施行

汚水1-4号枝線布設工事

留萌市

特 記 仕 様 書

特記仕様書

20 一般事項

01 適用

01 共通仕様書

当該工事は、『下水道土木工事必携（案）（公益社団法人日本下水道協会）』（以下、「土木工事必携」という。）及び『北海道建設部土木工事共通仕様書』（以下、「土木工事共通仕様書」という。）に基づき施工すること。

02 土木工事積算基準等

1 当該工事の設計図書は、北海道建設部が制定した次の積算基準等に基づき作成している。

（１）下水道工事

「土木工事積算要領（下水道編）」、「土木工事積算基準」、「下水道工事工種体系化の手引き・数量算出要領」

（２）一般土木工事

「土木工事積算要領」、「土木工事積算基準」、「土木工事工種体系化の手引き」

2 「土木工事積算基準」において定めている諸基準に基づき次のとおり扱っている。

（１）機械施工と人力施工等の施工方法や区分は設計図面等から判断し、機械施工が困難である場合を除き、機械施工を標準として積算している。

（２）特記仕様書等で別途明示している場合を除き、各基準において定めている標準工法・標準機種で積算している。

（３）上記（１）（２）については、受注者の任意施工を拘束するものではない。ただし、現場条件等がこれにより難しい場合には、必要に応じて設計変更する。

3 「下水道工事工種体系化の手引き」及び「土木工事工種体系化の手引き」において定めている事項を、設計図書の規格・摘要欄に明示しているが現場条件等に差異が生じた場合には、設計変更の対象とする。

4 当該工事の数量算出書は、北海道建設部が制定した次の土木工事数量算出要領等に基づき作成している。

（１）下水道工事

「下水道工事工種体系化の手引き・数量算出要領」

（２）一般土木工事

「土木工事数量算出要領」

03 概数

1 「概数として扱う数量一覧表」に示した数量は概数である。概数として扱う事項の施工に当たっては、施工後でなければ数量の確認ができない場合を除き、現地調査終了後速やかに工事監督員と協議し、数量の確定を行い着手すること。

2 概数の確定により数量の変更が生じた場合には、設計変更により処理する。なお、設計に対して過大な出来形数量に変更するものではないことに留意すること。

3 当該工事において、設計変更図書の作成（設計変更図面の作成及び工事数量の算出）を受注者に行わせることがある。

04 非契約数量

工事数量総括表の単位及び数量が（ ）で表記されている数量（摘要を含む）は、契約事項とならない数量である。ただし、契約数量に連動して概数の確定や現場条件変更等が生じた場合には、必要に応じて設計変更する。

05 参考図

参考図と朱書きして示した図面は、発注者が想定した工法・材料等を記したものであり、これに示されている事項を指定するものではない。

12 図面の電子媒体による納品

当該工事の成果品のうち出来形図については、施設台帳の整理、用地管理者への届出等に使用するため、通常の納品に加え電子媒体による提出も行うこと。
ファイルのフォーマット、提出方法については工事監督員と協議し決定すること。

24 施工に係る要点箇所の事前測量

当該工事の施工に当たり、次の箇所の基準高さをあらかじめ測量し、工事監督員に報告すること。なお、（２）の確認後には必要に応じてマンホール部材を設計変更する。

- （１）既設マンホールの位置並びに天端及び管底高さ
- （２）マンホール設置予定箇所の現地盤高さ

21 工程関係
02 工期設定

01 工期設定について

工期：2025年6月6日から2025年8月29日まで

工期には、施工に必要な実日数（実働日数）以外に以下の事項を見込んでいる。

- ①準備期間：30日間
- ②後片付け期間：20日間
- ③雨休率（実働工期日数に休日と悪天候により作業が出来ない日数を見込むための係数 実働日数×係数）：1.7

04 施工の制限内容

01 時間的制約を求められた場合の報告

当該工事の施工に当たり、関係機関等から通勤・通学の時間帯や周辺地域の状況により、時間的制約等を求められた場合には、工事監督員に報告すること。

05 近接施設の制限

04 他の占有者との立会い

当該工事の施工区間において次の既設占用物件が埋設されている。施工に先立ち、各管理者との立会いにより埋設位置を確認すること。

	測点	既設占用物	物件管理者
①	全区間	水道管	留萌市水道事業
②			
③			

07 埋設物等の調査等

01 地下埋設物の管理者等との立会い

当該工事の施工に当たっては、地下埋設物の管理者等との現地立会を行い、当該物件の位置、深さ、保安対策等の打合せを行うこと。なお、「立会い打ち合わせ調書」等にその打ち合わせ内容と結果を記載して立会い者等に押印を求め、当該調書の写しを工事監督員に提出すること。

15 段階確認

01 段階確認

段階確認は土木工事共通仕様書の1-1-1-23の6によるもののほか、次の〔別表2〕に基づいて行うこととする。

〔別表2〕

対象	種別	細別	確認時期	確認項目の目安
○	管布設工	管布設（自然流下管）	布設完了時	基準高、蛇行
		矩形渠（プレキャスト）	布設完了時	基準高、蛇行
		圧送管	布設完了時	基準高、蛇行
	管基礎工	砂基礎	施工完了時	幅、厚さ
○		碎石基礎	施工完了時	幅、厚さ
		はしご胴木基礎	施工完了時	幅、厚さ
○	管路土留工	軽量鋼矢板	建込完了時	切梁位置、根入れ深さ
		建込簡易土留	建込完了時	切梁位置
	立坑工	立坑工	施工完了時	寸法、高さ
		立坑基礎	施工完了時	基準高
	推進工	推進工	推進完了時	基準高、延長
	立坑内管布設工	空伏工	施工完了時	幅、高さ
	組立マンホール工	組立マンホール工	設置完了時	基準高、天端基準高
○	小型マンホール工	小型マンホール工	設置完了時	基準高、天端基準高
○	舗装復旧工	下層路盤	施工完了時	厚さ
○		凍上抑制層	施工完了時	厚さ

23 公害関係

01 公害防止の指定内容

11 排出ガス対策型建設機械の使用

当該工事は排出ガス対策型建設機械を使用することとしているが、使用できない場合は設計変更の対象とする。

02 水替・流入防止

01 水替ポンプの口径、台数

水替ポンプは、管渠工（開削）にΦ50×1台、立坑工（地下水位以下の箇所）にΦ50×1台を予定しているが、湧水量に差異が生じた場合には、工事監督員と協議すること。

02 湧水が発生した場合の報告

当該工事において湧水が発生した場合には、速やかに工事監督員に報告するとともに、対策工法について工事監督員と協議すること。

24 安全対策関係

01 交通安全施設の指定

01 交通安全管理の仕様

交通安全管理については、設計図等に基づくものとする。なお、地域住民・警察との協議、関連工事との調整等により変更の必要が生じた場合には、工事監督員と協議すること。

04 交通処理計画の提出

当該工事は片側交互通行規制を行い施工することとし、交通処理は別途計画図及び次によること。

- 1 着手前に現地状況等を確認のうえ、交通処理計画を作成し工事監督員と協議すること。
- 2 片側交互通行規制区間は、前後に交通誘導警備員を各1名配置すること。
- 3 片側交互通行規制区間は、一般車両の通行帯として2.5m以上の幅員を確保すること。
- 4 交通管理者への許可申請等において、交通処理計画の変更を求められた場合には、工事監督員に報告すること。

03 交通誘導警備員、警戒船、発破作業等の制約

04 交通誘導警備員の資格及び配置

当該工事は、市街地及び公安委員会が認定する検定合格警備員の配置を必要とする路線に係る工事現場であるため、交通誘導警備員は警備業法による警備員とすること。なお、警備員は延12人を予定しているが、警察等の協議により変更が生じた場合には、工事監督員と協議すること。

27 建設副産物・廃棄物関係

01 発生土の工事間利用・仮置条件

03 発生土の流用、搬出

床掘及び切土により発生する土砂は、工区内で流用すること。なお、残土は小平町農業振興有限会社（小平町花岡76番地、片道運搬距離 1 4 km）にある受入地に搬出すること。

02 再生資材等の利用

01 再生アスファルト混合物の使用

当該工事における再生アスファルト混合物の使用については、次のとおりとする。

- 1 再生密粒度アスファルト混合物：車道部表層

02 コンクリート再生骨材について

- 1 コンクリート再生骨材を路盤用材料等に使用する場合の品質確保については、土木工事共通仕様書による。
- 2 コンクリート再生骨材の品質管理は、製造者の試験成績結果によることができる。
確認の頻度は、製造施設毎に年 1 回以上とする。ただし、品質に変動が見受けられる場合は、確認の頻度を増やすなど考慮すること。なお、品質については、事前に確認すること。
- 3 コンクリート再生骨材を路盤等に使用する場合は、基本的に 1 0 0 % で使用するものとする。

03 コンクリート再生骨材の使用（再生骨材単価が、再資源化施設渡し単価で設定されている地域）

当該工事におけるコンクリート再生骨材の使用については、次のとおりとする。

- 1 コンクリート再生骨材：0～40mm級（管きょ基礎、舗装復旧における下層路盤及び砂利道復旧）14. 8m³
- 2 コンクリート再生骨材：0～80mm級（凍上抑制層）4. 1m³

また、再資源化施設は留萌建設管理部管内（積算上、運搬費も含めて一番安価な処理施設を想定）

（0～40mm片道運搬距離：5. 0km， 0～80mm片道運搬距離：5. 0km）を予定しているが、施工時期が確定した時点で、再資源化施設に供給量の確認を行い、施工協議簿に別途配布の「再生骨材の出荷確認について」の写しを添付し、工事監督員に報告すること。

04 副産物・廃棄物の処理条件

01 舗装切断作業の排水処理

舗装切断作業に伴い、切断機械から発生する排水については、排水吸引機能を有する切断機械等により回収するものとする。回収された排水については、関係機関等と協議の上、適正に処理するものとし、必要と認められる経費については設計変更の対象とするため、必要な資料を提出の上、工事監督院と協議すること。

02 特定建設資材廃棄物の処理条件

分別解体等によって発生する特定建設資材廃棄物（コンクリート塊、発生木材、アスファルト・コンクリート塊）は、次のとおり再資源化等を実施することとするが、受注者において適正な処理施設を選定し、施工計画書に建設廃棄物における適正処理計画について記載すること。また、処分場所については積算上の条件明示であり、処分場所を指定するものではない。なお、受注者の提示する処理施設と積算上想定している処理施設が異なる場合においても設計変更の対象としない。ただし、現場条件や数量の変更等、受注者の責によるものでない事項についてはこの限りではない。また、変更が生じた場合は、必要な資料を提出の上、工事監督員と協議すること。

1 アスファルト塊

- （１）処分場所：留萌建設管理部管内（受入可能な施設のうち、積算上運搬費等も含めて一番安価な処理施設を想定）
- （２）運搬距離：片道運搬距離4.6km
- （３）処理方法：再資源化
- （４）受入条件：粒径 30cm以下

02 建設副産物の処理条件

当該工事の施工により発生する建設副産物の処理については、次のとおりとするが、受注者において適正な処理施設を選定し、施工計画書に建設副産物における適正処理計画について記載すること。また、処分場所については積算上の条件明示であり、処分場所を指定するものではない。なお、受注者の提示する処理施設と積算上想定している処理施設が異なる場合においても設計変更の対象としない。ただし、現場条件や数量の変更等、受注者の責によるものでない事項についてはこの限りではない。また、変更が生じた場合は、必要な資料を提出の上、工事監督員と協議すること。

1 建設汚泥

- （１）処分場所：留萌建設管理部管内（受入可能な施設のうち、積算上運搬費等も含めて一番安価な処理施設を想定）
- （２）運搬距離：片道運搬距離1.6km
- （３）処理方法：縮減
- （４）受入条件：含水比85%を超える

概数として扱う数量一覧表

		工事名	汚水1-4号枝線布設工事	当初	事業区分	下水道		
					工事区分	管路		
工事区分・工種・種別・細別			規格	単位	前回数量	今回数量	数量増減	摘要
管路				式		1		
付帯工				式		1		
舗装版破碎工				式		1		
殻運搬			舗装版破碎	m3		1		概数
殻処分			アスファルト殻	m3		1		概数
濁水処理			アスファルト切断用冷却水	m3		0.1		概数

位置図

地理院地図

GSI Maps

位置図①



工 事 数 量 総 括 表

工事名	汚水1-4号枝線布設工事
-----	--------------

留萌市

工事数量総括表

		工事名	汚水1-4号枝線布設工事			(当 初)	事業区分	下水道		
							工事区分	管路		
工事区分・工種・種別・細別			規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	摘要		
								現場条件		単位
管路				式		1				
管きょ工(開削) < 管径150mm >				式		1				
管路土工				式		1				
(管路掘削)			0.28m3級BH	(m3)		(62)		< 1 m3当たり > 機械掘削工(バックホ)	m3	1
(管路埋戻)			0.28m3級BH 【ダンプトラック [オンロード・ディーゼル] 10 t 積級 】【タイヤ損耗費 10 t 積級 良好 供用日 】	(m3)		(40)		< 100 m3当たり > 機械投入埋戻工(バックホ) 土砂等運搬 採取土(砂質土・れき質土)	m3 m 3 m 3	100 105 105
(発生土処理)			0.28m3級BH 4tDT 【残土受入費(埋立) 受入場所：小平町花岡76番地 小平農業振興(有)】	(m3)		(62)		< 1 m3当たり > 発生土運搬工(4t積級・2t積級) 機械積み込み 処分費(m3)	m3 m3	1 1.2
管布設工				式		1				
リブ付硬質塩化ビニル管			PRP 150	m		24		< 1 m当たり > リブ付硬質塩化ビニル管設置工(市場単価)	m	1
(継手類)				(箇所)		(1)		< 1 箇所当たり > リブくら型MH継手	個	1

工事数量総括表

		工事名	汚水1-4号枝線布設工事			(当 初)	事業区分	下水道		
							工事区分	管路		
工事区分・工種・種別・細別		規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	摘要			
							現場条件	単位	数量	
マンホール削孔接続			箇所		1		< 1 箇所当たり > 削孔代	箇所	1	
管基礎工			式		1					
砕石基礎		40mm級Co再生骨材360 ° 【ダンプトラック [オンロードm ・ディーゼル] 1 0 t 積級 】【タイヤ損耗費 1 0 t 積級 良好 供用日 】			24		< 10 m当たり > 砕石基礎設置工(機械施工) (市場単価) 基礎材費	m3	3.82 3.82	
管路土留工			式		1					
(軽量鋼矢板土留)		矢板長H=2.0 型 【腹起し材質料 (100m当り) (m) 】【切梁材質料 軽量金属切 梁材 (100m当り) 】【水圧ポ ンプ質料 (100m当り) 】	(m)		(25)		< 25 m当たり > 軽量鋼矢板建込工 (両側分) 軽量鋼矢板引抜工 (両側分) 土留支保工(軽量金属支保工) 軽量鋼矢板等質料	m m m 式	25 25 25 1	
開削水替工			式		1					
(開削水替)			(日)		(5)		< 5 日当たり > ポンプ据付・撤去工 ポンプ運転工	現場 日	1 5	

工事数量総括表

		工事名	汚水1-4号枝線布設工事			(当 初)	事業区分	下水道		
						工事区分	管路			
工事区分・工種・種別・細別		規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	摘要			
							現場条件	単位	数量	
マンホール工			式		1					
組立マンホール工			式		1					
既設マンホール蓋交換		蓋交換のみ	箇所		1		< 1 箇所当たり > 蓋(受枠とも) 調整コンクリートブロック据付工 蓋(受枠とも) 調整コンクリートブロック据付工 グラウンドマンホール鋳鉄蓋 調整金具 転落防止付断熱内蓋	組 組 組 組 組	1 1 1 1 1	
小型マンホール工			式		1					
小型マンホール		T-25	箇所		1		< 1 箇所当たり > 小型マンホール工(塩化ビニル製) (市場単価) 鋳鉄製防護蓋	箇所 個	1 1	
付帯工			式		1					
舗装版破碎工			式		1					

工事数量総括表

工事区分・工種・種別・細別	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	事業区分	下水道		
						工事区分	管路		
						摘要			
						現場条件	単位	数量	
(舗装版切断)	アスファルト舗装版、t=5cm以下	(m)		(50)		< 1 m当たり > 舗装版切断	m	1	
舗装版破碎	アスファルト舗装版、t=5cm以下	m2		25		< 1 m2当たり > 舗装版破碎	m 2	1	
殻運搬	舗装版破碎 【ダンプトラック [オンロード・ディーゼル] 1 0 t 積級 】【タイヤ損耗費 1 0 t 積級 良好 供用日 】	m3		1		< 1 m3当たり > 殻運搬	m 3	1	
殻処分	アスファルト殻 【再資源化廃棄物受入費 アスファルト塊 (30cm以下) ハラダ工業 (株) 】	m3		1		< 1 m3当たり > 処分費 (t)	t	2.3	
濁水処理	アスファルト切断用冷却水 【再資源化廃棄物受入費 含水率85%超 (ペントナイト・セメントミキ、推進、杭打、側溝、カッター等) (株) ネオリサイクル 第3工場】	m3		0.1		< 1 m3当たり > 処分費 (t)	t	1.1	
アスファルト舗装復旧工		式		1					
凍上抑制層	80mm級Co再生骨材、t=30cm 【路盤材 】【ダンプトラック [オンロード・ディーゼル] 1 0 t 積級 】【タイヤ損耗費 1 0 t 積級 良好 供用日 】	m2		14		< 1 m2当たり > 下層路盤 (歩道部) 路盤材費	m 2 m 3	1 0.3	

工事数量総括表

		工事名	汚水1-4号枝線布設工事			(当 初)	事業区分	下水道	
						工事区分	管路		
工事区分・工種・種別・細別		規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	摘要		
							現場条件	単位	数量
下層路盤(車道・路肩部)		40mm級Co再生骨材、t=15cm 【路盤材 】 【ダンプトラック [オンロード・ディーゼル] 1 0 t 積級 】 【タイヤ損耗費 1 0 t 積級 良好 供用日 】	m2		14		< 1 m2当たり> 下層路盤（歩道部） 路盤材費	m 2 m 3	1 0.15
砂利道復旧(車道・路肩部)		40mm級Co再生骨材、t=20cm 【路盤材 】 【ダンプトラック [オンロード・ディーゼル] 1 0 t 積級 】 【タイヤ損耗費 1 0 t 積級 良好 供用日 】	m2		18		< 1 m2当たり> 下層路盤（歩道部） 路盤材費	m 2 m 3	1 0.2
表層(車道・路肩部)		再生粗粒度As、t=5cm 復旧幅1.4m以上3.0m以下 【再生密粒度アスコン 混入率5 0 % 】	m2		25		< 1 m2当たり> 表層（車道・路肩部）	m 2	1
区画線工			式		1				
ペイント式区画線		ペイント式 溶剤型実線 15cm常温	m		4		< 1 m当たり> 区画線設置	m	1
道路付属施設工			式		1				
境界工			式		1				
境界杭設置&撤去		根巻き基礎有り 【境界杭撤去工 】	本		1		< 1 本当たり> 付属物設置工（境界杭設置） 付属物撤去工（境界杭）	本 本	1 1

工事数量総括表

		工事名	汚水1-4号枝線布設工事			(当 初)	事業区分	下水道		
						工事区分	管路			
工事区分・工種・種別・細別			規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	摘要		
								現場条件		単位
仮設工				式		1				
交通管理工				式		1				
(交通誘導警備員A)				(人日)		(6)		< 1 人日当たり > 交通誘導警備員 A	人日	1
(交通誘導警備員B)				(人日)		(6)		< 1 人日当たり > 交通誘導警備員 B	人日	1
直接工事費				式		1				
共通仮設				式		1				
共通仮設費				式		1				
運搬費				式		1				
(仮設材運搬費)			軽量鋼矢板	(t)		(6.6)		< 1 t当たり > 仮設材等の運搬 (鋼矢板、H形鋼、覆工板、敷鉄板等 仮設材等の積込み取卸し費	t t	2 2
共通仮設費 (率計上)				式		1				

工事数量総括表

		工事名	汚水1-4号枝線布設工事			(当 初)	事業区分	下水道		
							工事区分	共通仮設費		
工事区分・工種・種別・細別		規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	摘要			
							現場条件		単位	数量
純工事費			式		1					
現場管理費			式		1					
工事原価			式		1					
一般管理費等			式		1					
工事価格			式		1					
消費税相当額			式		1					
工事費計			式		1					